

お詫びと訂正

令和4年3月吉日

会員各位

一般社団法人愛知県臨床工学技士会
編集委員理事 小塚 信
(社会医療法人大雄会 大雄会第一病院)
(公印省略)

一般社団法人愛知県臨床工学技士会誌 第12号に関するお詫びと訂正

拝啓

陽春の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は編集委員会へのご理解・ご協力いただきありがとうございます。

昨年度配布しました会誌にて掲載しております病院施設紹介で写真が正しく表記されていないものがありました。つきましては訂正し、再度掲載させていただきます。

関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

敬具

記

訂正) 一般社団法人愛知県臨床工学技士会誌 第12号

P.18 P.19 病院施設紹介

社会医療法人 名古屋記念財団 新生会第一病院

以上

病院施設紹介

社会医療法人 名古屋記念財団 新生会第一病院

臨床工学部 金田一彰洋

【はじめに】

当院は、1971年名古屋クリニックの名称で夜間透析専門施設として開院し、当初から患者さんの社会復帰の支援を大きな目標として夜間通院透析やHHDシステムの構築や社会復帰のためのリハビリ・訓練施設の設置といった取り組みを透析療法黎明期からいち早く行ってきた点は、当院の大きな特徴です。



施設外観

1973年には社会医療法人新生会、1975年には社会福祉法人新生会を設立し、名古屋クリニックは1976年に新生会第一病院と名称を変更しました。両法人では現在HOSPYPグループ(HOSPYP:Hospitality+Happy、「モア・ホスピタリティ」「モア・ハピネス」を意味する造語)の愛称のもと10施設を運営しており、HOSPYPグループ全体で約1500人の透析治療にあたっています。当院はその中心的な施設となっています。

当院は2018年5月に建物の老朽化のため名古屋市瑞穂区から天白区へ新築移転いたしました。また時代の流れから病院が行う治療も徐々に変わり、新しい機能を有する施設の必要性も大きくなったことから、より充実した機能と設備を整え、多種職が連携し、高水準な透析医療を提供するとともに、地域の医療・介護・福祉機関との連携を強化していき、新しい地で信頼される医療の確立を目指しています。

【臨床工学部の紹介】

臨床工学技士は、HOSPYPグループ全体で約60名、当院では16名勤務しています。業務内容として医療機器保守管理をはじめ、在宅血液透析機器保守管理と臨床業務を行っています。臨床業務に関しては、透析室臨床業務はもちろんですが、基礎体重設定・バスキュラーアク

セス管理等、工学的な知見から様々なモニタリング技術を活用し臨床に参画、寄与しています。またIT技術を生かしHOSPYP臨床工学部独自で開発している透析支援システムを電子カルテと連動し様々なデータを各種モニタリングにてデータ化した結果と比較・評価・考察できるインフラを整備し実施しています。

【透析室の紹介】

名古屋の南東部地区は、透析患者さんの増加が著しく、当院維持透析に対するニーズを支えるという意味合いで、透析医療の提供、ベッドの数を増やす必要があり、透析室は2階と3階に各50床、計100床とし、現在は約270人の透析治療にあたっています。また透析室内の快適性を向上させるため、室温のムラが起きにくい輻射熱を利用した空調導入しています。

近年ADLが悪化した通院困難の透析患者さんが増加しているため、透析室のある2階に送迎車が直接乗り入れできるように1階からスロープを設けています。

透析関連装置として、透析液清浄化に努めるべく、RO装置はNF膜・RO膜と2段構成とし、送液ラインはループ配管を取り入れ、液の停滞を無くす構造としています。更に自動薬液洗浄システムを導入し、ROタンク及びROラインを毎週末次亜塩素酸ナトリウムにて消毒し、配管上に設置している残留塩素計の連動にて自動で消毒液の洗い流しを行うプログラムとしています。多人数用透析液供給装置は免振装置に乗せたDAB-70NX3台を使用しています。RO装置、多人数用供給装置ともに単一故障状態においても透析治療を中断させることのないバックアップ体制を整えています。多用途透析用監視装置にはDCS-100NX・DCS-200Siを設置し全台BV-Plus・排液量のモニタリング機能を装備し基礎体重評価・バスキュラーアクセス評価・透析量評価を随時行い、適正かつ最良な透析治療を提供しています。また災害対策として備蓄はもちろんのこと大型の発電機・100トン受水槽の設備を装備し受電システムも2系統とし、多方面からの最悪の事態をできるだけ避けられるよう対応しています。また透析室のある2階まで車を乗り入れられるスロープを設置したことで災害時にエレベーターが停止しても1階と2階の往来は比較的容易に行えます。



2階に乗り入れるスロープ



透析室



個室病室

【外来】

腎臓病、糖尿病、関節リウマチを中心に診療を行い、また日常生活の指導にも力を入れています。また手術・シャント外来部門では、手術室2室、X線TV室1室の設備があり、HOSPITALグループ内や近隣他施設の透析患者さんのシャント作成やPTA中心に年間1600例程施行し疼痛の少ない手術を目指して行っています。



多人数用透析液供給装置



RO装置



100トン受水槽



手術室

【病棟】

一般病棟1病棟48床(内、地域包括ケア病床21床)は、導入期、シャント関連合併症、急性期後のリハビリが必要な患者さんに対し、症状・病態に応じた治療を行います。

療養病棟2病棟96床は、急性期後のリハビリや継続治療の必要な患者さんに入院していただく病棟です。患者さんの在宅復帰を目指しチーム医療で支援を行い、また患者さん一人ひとりを尊重したケアの提供を心がけています。

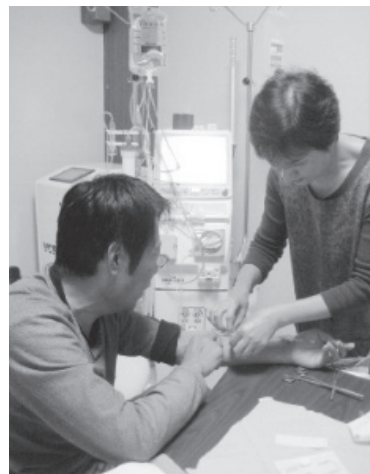
患者さんの療養生活を大切に、四季折々のレクリエーション活動を計画し、その人らしい日常生活の自立を支援しています。

【在宅血液透析】

当院では1972年より医療施設管理のもと、自身のライフスタイルに合わせて、透析者・介助者が家庭で血液透析を行う在宅血液透析を提供・管理しています。現在は34人の在宅血液透析を管理しています。安心・安全な在宅血液透析ライフを過ごしていただくために在宅透析教育センタースタッフが教育支援をしています。24時間オンコール体制をとっており、看護師・臨床工学技士といつでも連絡ができ、連携してサポートを行っています。

【さいごに】

当院は地域が必要としている医療と、腎臓病・透析療法の専門的医療を提供し、人々から信頼される「アットホームな病院」を目指しています。また如何なる状況でも、より質の高い医療を提供できるよう職員一同、一生懸命努めています。



在宅血液透析の様子